

講義で「都々逸」を聴く

金曜 1 限目の「問題認識特講」は外部から講師を招いて、現代社会の諸問題について現場から問題提起してもらっている。今年度の最初 5 回は名古屋市の山田雅雄副市長、ついで中日新聞の支局長・デスク長などをつとめた伊神孝信さんが担当している。

6 月 8 日の講義は、名古屋の芸能ということで都々逸の第 1 人者である柳家小三亀松師匠らがゲスト出演した。



都々逸は名古屋が発祥の地であり、ことし 85 歳の小三亀松師匠は大須演芸場で都々逸を演じている。わたしも生の都々逸は初めてであり、同僚らにも呼びかけた。学生の大半は都々逸を初めて知り、最初は戸惑っていたが、師匠らの歌や三味線、踊りの名調



子に吸い込まれていくようだった。

翌日の中日新聞に写真入りで「生の『都々逸』鑑賞」と大きく報じられた。本物の芸能にふれて、名古屋の芸能や文化について再認識する学生が多かった。わたしも準備などで疲れたが、都々逸と三味線に興味をもった。大須演芸場に

行って、師匠らの芸を客席から見たいものだ。

(2007 年 6 月 28 日 記)